

# Photo Gallery



## 川の水質を調べる 来光川はきれいな川



▲採集した生物を観察する児童ら

7月24日、上沢の観音橋付近の来光川中流域で水生生物観察会が行われました。

同観察会には、小学4年生・5年生17人が参加し、身近な川の石の裏などにいる生き物を捕まえて、川の水質を調べました。

参加した児童らは川に膝まで浸かり、2人1組で石をひっくり返してこすり、網で生物を採集しました。約30分の採集できれいな川にしかないヒラタカゲロウやナガレトビケラを見つけ、参加した児童らは「見たことのない生物がいた」。などの感想を話しながら採集に熱中しました。



## 食生活のバランスや魚の構造を学ぶ 「おさかなクッキング」

7月26日、函南町保健福祉センターで夏休み親子食育教室「おさかなクッキング」が行われました。

同教室には、12組27人の親子が参加し、「魚」をテーマにした講話や調理実習を通してバランスの良い食生活の大切さを学びました。

講話では、栄養士から駿河湾で獲れる魚の種類や魚に含まれる栄養などについて説明。調理実習では講師として参加した滝野泉さん（マックスバリュ東海食育インストラクター）が魚のさばき方を披露し、体の構造などを説明。その後4グループに分かれてブリのバジルソテーなど5品の料理に挑戦しました。



▲ブリのさばき方を学ぶ参加者



## 伊豆半島ジオパーク2回目の挑戦 世界認定に向けて現地審査



▲丹那断層公園で審査員へ説明する様子

7月25日～7月27日の3日間、世界ジオパーク認定を目指す伊豆半島ジオパークの現地審査が行われました。

現地審査は2人の専門家がいき、函南町内の「丹那断層公園」「火雷神社」など伊豆地域の3市4町のジオサイト11か所を含む16か所を訪れました。

現地審査の結果は、9月に中国で開かれるユネスコ世界ジオパーク評議会で審議され、順調に進めば、平成30年春に開催予定のユネスコ執行委員会で議題とされ、認定の可否が決まります。

## 函南町文化協会

# 団体・活動紹介

### 池坊正流かんなみ会

小川 和子

花を飾ることは、皆を幸せにする心弾む楽しい仕事です。花を見ると誰もが微笑み、平和な気持ちになるでしょう。私たちは花から大きな恩恵を受けています。

生け花は古来より「華道」という「道」として多くの教えを伝えて来ました。古典の花には出生を生かした決められた生け方があり今も守られています。また、建築様式の変化や花材の流通の変化とともに現代風の花も加わりました。

もっと大きくなりたかった枝や花を切りとって自由に生けさせていただくからには、枝で樹木を、水辺の花で池の風情を、石で自然の姿を表現する花材の個性を生かして良い作品に仕上げたいものです。

す。小さな水盤の中に自然界の縮図を描いていると感じることもあります。

植物の命を扱っているという気持ちから、生徒は残った枝に小さな芽を見つけると挿し木に持ち帰ったり、ドラセナや柳の発根を試みて植えたりしています。植物へのせめてものお礼の気持ちの表れかと思えます。「カーネーションが咲きました」「菊が増えました」と報告を受けるのも心楽しいことです。

現在の会員は11人です。小さな会ですが、多くの人を楽しませていきます。毎月、第1・第3木曜日の午後に、函南町文化センターで稽古をします。一度見学にお越しください。

問合せ／小川和子 (947-2128)

# 文芸散歩

かなかなの鳴いてはるけき樹となりぬ  
晩涼の山の灯ひとつ又ひとつ  
合歓の花湖は暮色に包まれり  
ありなしの風をとらへし釣忍  
棚経の声凛として若き僧  
星涼し農良着一竿干されをり  
秋の宵音なく落つる砂時計  
負ふた娘に小言いはれる鯛雲  
人ごゑの透きとほるなり今朝の秋  
きび畑出づれば風の透き通る  
見えつつも遠きバス停青蜜柑  
夕雲の広がってきし秋の蟬  
のつけから聞き入る話衣被  
かなかなや見えて入らぬ針の穴  
初風の素肌吹きぬけ露天風呂  
少年にあどけさ残る晩夏光

奥名春江  
森田節子  
小杉昌子  
早川典子  
山田静子  
大村百合子  
吉田はつ子  
杉原文枝  
大山章子  
犬飼陽子  
勝山智恵子  
安本賀津子  
及川光代  
平子かおる  
林正敏  
飯田由紀子

〈風の会〉